

平成29年度 第2回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 平成30年3月23日(金) 13時30分～14時40分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 会長 水沢勉
副会長 吉村維元
委員 栗木雄剛、成重千恵子、内田尚子、岩崎由紀子、青木智明
事務局 草薙館長、平井副館長、土方館長代理、近藤担当長、
勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 平成29年度の事業報告について
これまでの事業報告（事務局から説明）
○作品 ○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業 ○施設利用者等の統計
 - (2) 平成29年度奏プラン事業の点検評価について（事務局から説明）
 - (3) 平成30年度の事業予定について（事務局から説明）
○展覧会 ○教育普及
 - (4) その他
- 3 閉会

■開会あいさつ

委員の皆様には、お忙しい中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

美術館では、春に開催いたしました「リアルのゆくえ展」など合計8本の展覧会を開催し、全国各地から御来館いただき、目標であります年間観覧者数10万人を超えることができました。

また、子育て支援として「赤ちゃんアート」などのワークショップや学校との連携による「対話による美術鑑賞」を実施し、多くの参加者がありました。

委員の皆様には、今回、平成29年度事業報告及び平成30年度事業予定（案）についての御審議をしていただきますが、今後の美術館事業や運営などにつきましても、貴重な御意見、御助言をいただければと思っております。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

■議題及び質疑

- (1) 平成29年度事業報告について これまでの事業を報告。
 - ◆下半期の展覧会、教育普及について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。
 - ◆その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理や防災訓練等の内容を事務局から説明。

◆展覧会について

委員 NHKの日曜美術館で取り上げていただける手順やセレクションは、NHKで一方向的に決めているのか。

事務局 NHKは、全国の美術館に年間の展覧会計画のアンケートを取り、1年間のある程度の放送予定を決めている。NHKは公共放送であり、放送内容は、教育的で専門性が高いものを選んでおり、大衆受けする展覧会だけを選んでいく訳ではない。

当美術館は、広報活動に力を入れ、日曜美術館に取り上げていただけるように努めているが、最終的な判断は、NHKが行っている。

会長 美術館によっては、広報担当や広報専属スタッフがいる場合があるが、どのような体制で広報を行っているのか。

事務局 当館では、専属ではないが学芸員の一人を広報担当として置いている。広報の一元化により効果を上げている。

委員 地元企業の協力とあるが、どのくらいの協力があつたのか。

事務局 当初は、秋に開催した神山明・濱田樹里展を大きな展覧会と位置づけ、片岡球子展は神奈川県立近代美術館の作品をお預かりしていて、小さい展覧会と位置付けていたが、片岡球子展を大きな企画展へ位置づけたため、展覧会内容の充実を図る必要があり、地元企業へ寄付をお願いした結果、1社につき数万円の寄付があつた。

委員 企業の協力により、予算への割合は、どのようになったのか。

事務局 展覧会の内容により予算は異なり、企業への協力依頼も異なる。寄託作品を含む所蔵作品を活用する展覧会予算は少ない。そこで、今回は展示作品の充実を図ったり、「球子のことば」という本を購入し、来館者サービスの一環として販売を行った。

◆教育普及について

委員 小学生対象の対話による美術鑑賞のボランティアの人数は、どのくらいなのか。

事務局 1期から3期までのボランティアの総数は、40名くらいである。美術館がサポートして、市民との協働でゆくゆくはボランティアが中心となって、事業を進めていきたい。

人数的にもぎりぎりの状態で行っている。

委員 教育委員会からもっと協力していただけたら、よいのではないかと。

事務局 美術館の事業に関して、教育委員会に理解していただいている。

委員 日頃あまり言葉を発しない児童に対し、対話による美術鑑賞のボランティアの方が、児童から意見を引き出すのが上手く、児童が言った意見や感想を認めてくれるので、児童は心を解放して、美術に目を向けている。

会長 美術館は学校とのハブとなる。また、美術館は潜在的な要素を持ち、地域文化のハブとなる場所である。

会長 赤ちゃんアートは、何年目になったのか。

事務局 赤ちゃんアートは、7年目くらいとなる。

会長 赤ちゃんの時に体験したことは、3歳ぐらいになっても覚えているから、赤ちゃんの頃から鑑賞することはよい。

委員 美術は心が休まるので、認知症の方にも鑑賞していただくとよい。生涯学習施設として子どもだけでなく、高齢者を受け入れてみてもよいのではないか。

事務局 平塚には、盲学校やろう学校もある。今後、ワークショップを企画する上で、検討していきたい。

(2) 平成29年度奏プラン事業の点検評価について

◆平塚市教育振興基本計画（奏プラン）の概要及び「魅力ある美術展覧会事業」ほか4事業の点検評価について、協議会委員の意見や美術館の取組み等について事務局から説明。

◆寄贈・寄託作品について

委員 寄贈と寄託の違いは何か。

事務局 寄贈は、作品の所有権が美術館にあることであり、寄託は、作品を預かることである。寄贈及び寄託作品に関しては、選定評価委員会に諮っている。寄託作品の寄託期間は、作品を自由に展示することができる。

(3) 平成30年度の事業予定について

◆下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容を事務局から説明。